

兵庫地域公害防止計画用語解説

	用語	説明
あ	アスベスト	石綿ともいう。天然に存在する繊維状の鉱物。軟らかく、耐熱・耐摩耗性に優れているため、断熱材、建築材、車のブレーキなど、広く利用されていた。 しかし、肺がんや中皮腫の原因になることが明らかになり、使用制限又は禁止の措置が講じられるようになった。
い	硫黄酸化物 (SO <sub>x</sub> )	硫黄の酸化物の総称。石油や石炭などの化石燃料を燃焼するとき、あるいは硫化物鉱物を焙焼するときに出される。 水と反応すると強い酸性を示すため、酸性雨の原因になる。
い	一酸化炭素 (CO)	炭素又は炭素化合物が不十分な酸素供給の下に燃焼するか、あるいは炭酸ガスが赤熱した炭素と接触するときを生ずる無色、無臭の気体。 自動車の排気ガスに含まれて大気中へ排出される。
い	一般廃棄物	家庭から出るごみや、事務所から出る紙ごみなどを指す。「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」で「産業廃棄物以外の廃棄物」と定義されている。
え	エコアクション 2.1	広範な中小企業、学校、公共機関などに対し、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度。 「環境マネジメントシステム」、「環境パフォーマンス評価」、「環境報告」をひとつに統合したものである。
え	エコツーリズム	自然環境や歴史文化を対象とし、それらを体験し、学ぶとともに、対象となる地域の自然環境や歴史文化の保全に責任を持つ観光のあり方のこと。
か	環境影響評価	環境に大きな影響を及ぼすおそれがある事業について、その事業の実施に当たり、あらかじめその事業の環境への影響を調査、予測、評価し、その結果に基づき、その事業について適正な環境配慮を行うこと。
か	環境基準	環境基本法に基づいて政府が定める環境保全行政上の目標であり、人の健康を保護し、生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準である。 大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音などに関する環境基準が定められている。
か	環境保全協定	法令の規制を上回る自主的な環境保全対策を事業者に促すために締結するもの。
か	環境ロードプライシング	料金に格差を設け、環境影響の少ない路線に車両を誘導することにより、自動車公害の低減を図る方法。
が	合併処理浄化槽	水洗便所排水と台所や風呂などから排出される生活雑排水を併せて処理する浄化槽。 平成13年4月に、し尿のみを処理する「単独処理浄化槽」の製造が禁止されたため、現在では単に浄化槽といえば「合併処理浄化槽」のことを指す。
ぐ	グリーン購入	商品やサービスを購入する際に必要性をよく考え、価格や品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ小さいものを優先的に購入すること。
け	健康項目	環境基本法に基づき、人の健康の保護のために定められる環境基準であり、公共用水域の水質保全行政の目標として達成、維持されることが望ましい基準である。 カドミウムや全シアンなど26項目が含まれる。
こ	光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	大気中の揮発性有機化合物や窒素酸化物が太陽の紫外線を吸収し、光化学反応で生成した酸化性物質の総称。粘膜への刺激、呼吸への影響といった健康影響のほか、農作物など植物へも影響を与える。 なお、光化学オキシダントに起因するスモッグを光化学スモッグという。
こ	公共車両優先システム (PTPS)	PTPS = Public Transportation Priority Systemsの略。 優先信号制御やバス専用・優先レーンの設置により、公共交通車両の優先通行を可能にするシステム。

	用語	説明
こ	交通公害低減システム (EPMS)	EPMS = Environment Protection Management Systemの略。 大気汚染状況や気象状況を考慮した交通情報提供や信号制御を行うことにより、道路交通に起因する公害を低減するとともに、自動車から排出される二酸化炭素を抑制することで地球温暖化を防止しようとするシステム。
こ	交通需要マネジメント (TDM)	TDM = Transportation Demand Managementの略。 道路利用者に時間、経路、交通手段や自動車の利用法の変更を促し、交通混雑の緩和を図る方法。
こ	高度処理	排水や廃ガスなどを、通常処理よりもさらに高度に処理することである。 一般的には、排水中のCOD、窒素、りんを通常の処理より高度に処理することを指す。
こ	コミュニティ・プラント	一般廃棄物処理計画に基づき、市町村が設置、管理するものであり、し尿と生活雑排水を合わせて処理するための小規模な污水处理施設である。 (「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」における「し尿処理施設」に該当する。)
さ	最終処分場	廃棄物は、資源化または再利用される場合を除き、最終的には埋立処分されることとなるが、この最終処分を行う施設が最終処分場である。 ガラスくず等の安定型産業廃棄物のみを埋め立てるための「安定型処分場」、有害な産業廃棄物を埋め立てるための「遮断型最終処分場」、これら以外の産業廃棄物を埋め立てるための「管理型最終処分場」、及び一般廃棄物最終処分場とに分類される。
さ	さわやか畜産確立対策	適切なふん尿処理の目標99%達成に向け、処理施設の計画的整備、堆きゅう肥の有効利用、新技術の開発と普及などを総合的に推進する施策。
さ	産業廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち、燃えがら、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチックなど20種類の廃棄物をいう。 「排出者責任」に基づき、その適正な処理が図られる必要がある。
さ	酸性雨	工場や自動車などから排出された硫酸化合物や窒素化合物が大気中で硫酸や硝酸に変化し、これらを取り込んだと見られるpHの低い(酸性度の強い)雨のこと。 酸性雨により、湖沼や河川の酸性化、森林への影響などが懸念されている。
し	シス-1,2-ジクロロエチレン	クロロホルムのような臭いのあり、無色で、揮発性及び引火性のある液体。 産業的には、有機溶剤、合成原料などの用途がある。 環境中では、トリクロロエチレンやテトラクロロエチレンの分解生成物として検出されることが知られている。
し	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	硝酸性塩及び亜硝酸性塩として含まれる窒素のこと。 窒素肥料や家畜の糞尿、工場排水に含まれる窒素が、排水処理施設や環境中で微生物に分解されて生成する硝酸性窒素と、中間生成物の亜硝酸性窒素がある。
し	新交通管理システム (UTMS)	UTMS = Universal Traffic Management Systemの略。 警察庁が「安全・快適にして環境にやさしい交通社会」を目指して推進しているプロジェクト。
じ	ジクロロメタン	発がん性の疑われている有機塩素系溶剤の一種で、無色透明の液体、不燃性、水に難溶。 洗浄剤・溶剤として優れている反面、環境中に排出されても安定で、地下水汚染の原因物質の一つとなっている。
じ	自動車NO <sub>x</sub> ・PM法	「自動車から排出される窒素化合物の特定地域における総量の削減等に関する特別措置法」のこと。 自動車から排出される窒素化合物と粒子状物質の総量を削減する所要の措置を講ずることなどにより、二酸化窒素と浮遊粒子状物質に係る環境基準の確保を図ることを目的とした法律。

	用語	説明
す	水質総量削減計画	広域な閉鎖性海域の水質は、排水基準による濃度規制のみでは改善できないため、海に流入するCOD、窒素、りんを総量を規制する水質総量規制制度が設けられている。 この制度は、5年ごとに総量削減計画を策定して水質改善を図ることとしており、現在は21年度を目標とする第6次水質総量削減計画が実施されている。
せ	生活環境項目	生活環境を保全する上で維持することが望ましい基準。具体的には、pH、BOD、COD、SS、DOなどの基準値が設定されている。 河川、湖沼、海域の閣公共用水域について、利用目的に応じた水域類型ごとに基準値が定められており、具体的な水域への類型あてはめは、環境大臣又は都道府県知事が決定する。
せ	生活排水	水質汚濁防止法で「炊事、洗濯、入浴等人の生活に伴い公共用水域に排出される水（排出水を除く。）」と定義されている。 生活排水の中で、し尿を除いたものを「生活雑排水」という。
せ	生活排水99%大作戦	さわやかな県土をつくり、都市と農山漁村の交流に役立てることを目標に、海や川の水質改善、快適な生活環境の創造を目指し、平成13年度から平成16年度にかけて展開された施策。 平成17年度からは、生活排水処理施設の整備が遅れている市町への支援と維持管理支援を行う「生活排水99%フォローアップ作戦」が展開されている。
せ	生物の多様性の確保	多くの生物や生息環境が健全な状態で保全されていること。 生物多様性は「遺伝子」「種」「生態系」の各レベルで多様性が確保されている必要がある。
だ	ダイオキシン類	廃棄物の焼却過程などで非意図的に生成される毒性の強い物質。 ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン（PCDD）、ポリ塩化ジベンゾフラン（PCDF）、コプラナーポリ塩化ビフェニル（co PCB）の総称。
ち	窒素酸化物（NO <sub>x</sub> ）	物が燃える際に、空気中の窒素や物に含まれる窒素化合物が酸素と結合し、必ず発生するもの。 人の健康に悪影響を与えるおそれがあり、また、紫外線により光化学反応を起こし、光化学オキシダントを生成する。
ち	長期的評価	大気汚染に係る地域の状況を長期的に把握し、施策の効果などを的確に判断するため、年間を通して測定値を評価するもの。
て	低公害車等	低公害車、低燃費車、低排出ガス車などを指す。 低公害車は、従来のガソリン車やディーゼル車に摘要される最新の規制値と比べ、排出ガス中の汚染物質の量が少ない車を指す。電気自動車、天然ガス自動車、ハイブリッド自動車などがある。
て	低フラップ角着陸方式	滑走路の距離が長く、十分に余裕がある場合に浅いフラップ角のまま着陸する方式。 機体の空気抵抗が減少する分、エンジンの出力を減少させることができ、地上に到達する騒音量も減少させることができる。 フラップ＝離着陸時に使う、揚力を増すための装置
て	テトラクロロエチレン	有機塩素系溶剤の一種。無色透明の液体でエーテル様の臭いを有し、揮発性、不燃性、水に難溶。 洗剤・溶剤として優れている反面、環境中に排出されても安定で、トリクロロエチレンなどとともに地下水汚染などの原因物質となっている。
て	テレメータシステム	遠隔自動データ収集装置のこと。 大気汚染や気象などを監視するため、測定地点に自動測定器を設置し、現地の測定データ（電気信号）を電話や無線に乗せて、監視センターに自動送信することにより、監視センターで現地の状況を「オンライン・リアルタイム」で集中監視することができる。

	用語	説明
で	ディレイド-フラップ進入方式	航空機騒音を軽減するための運行方式のひとつ。 脚下げ及びフラップ下げ操作をなるべく遅くして気体の空気抵抗を減らし、エンジンの必要推力を減少させることによって騒音軽減を図る方法。
と	トリクロロエチレン	有機塩素系溶剤の一種。無色透明の液体でクロロホルムに似た臭いを有し、揮発性、不燃性、水に難溶。 洗浄剤・溶剤として優れている反面、環境中に排出されても安定で、テトラクロロエチレンなどとともに地下水汚染の原因物質となっている。
に	二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	腐敗した卵に似た刺激臭のある無色の気体。 主要大気汚染物質のひとつであり、また、窒素酸化物とともに酸性雨の原因物質である。 二酸化硫黄による汚染大気は呼吸器を刺激し、せき、ぜんそく、気管支炎などの障害を引き起こす。
に	二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	窒素の酸化物で赤褐色の気体であり、代表的な大気汚染物質である。 人の健康影響については、二酸化窒素濃度とせき・たんの有症率との関連や、高濃度では急性呼吸器疾患罹患率の増加などが知られている。
に	人間サイズのまちづくり	「まちづくり基本条例」の総括的な基本理念である。 阪神・淡路大震災を教訓とし、新しい時代にふさわしいまちづくりのあり方として、生活者の視点に立った、安全で安心な魅力あるまちづくりを協働（パートナーシップ）のもとで、兵庫県全土において進めていこうとする考え方。
の	農業集落排水施設	農業集落におけるし尿、生活雑排水などの汚水又は雨水を処理する施設。 農業振興地域内において、計画規模が概ね20戸以上、1,000人以下のもの。
ば	バラストマット	新幹線騒音・振動防止のために開発された合成ゴムのマット。 高架橋からの振動では、特に線路と車輪で作られる振動が大きいのが、バラストマットはその振動防止、騒音対策としても有効である。 一般的には3db程度の騒音低減効果があると言われている。
ぱ	パークアンドライド	従来、都心部まで自動車を乗り入れていた通勤者などが、自宅の最寄り駅に近接した駐車場に駐車し、そこから都心部へは公共の鉄道やバスなどで移動するよう誘導するシステム。
ひ	ひょうごの森・川・海再生プラン	自然再生や健全な水循環の構築の観点から、森林、河川、沿岸域などの各分野における環境再生について、森～川～海の水系で一貫した施策推進を図るとともに、流域に暮らす人々の参画と協働のもと、「美しい兵庫」づくりを推進する施策。
ひ	貧酸素水塊	海洋や湖沼などの閉鎖性水域において、魚介類が生存できないくらいに溶存酸素濃度が低下した水の塊のこと。 通常、海底ではプランクトン等の分解により、溶存酸素濃度が低下する。夏季に表層付近で温められた海水は、底層の冷たい海水よりも軽くなるために海水の密度勾配ができ、混合攪拌されなくなる。このため、海底の海水に酸素が供給されなくなり、貧酸素水塊が発生する。
ふ	富栄養化	湖沼や内湾が水中に窒素、りんなどの栄養塩が多い状態に遷移すること。 藻類の異常繁殖により、アオコ、赤潮などの原因となる。 生活排水などの人為的な原因によって急速に進行していることが問題となっている。
ふ	浮遊粒子状物質 (SPM)	SPM = Suspended Particulate Matterの略。大気中の粒子状物質のうち、粒径10μm以下のものをいう。 工場などの事業活動や自動車の走行に伴い発生するほか、風による巻き上げなどの自然現象によるものもある。

	用語	説明
ふ	フロン	<p>ふっ素を含む炭化水素化合物の総称で、フルオロカーボンともいう。無毒性、不燃性、化学的安定性などに優れた性質を持つことから、業務用冷凍冷蔵機器などの冷媒のほか、断熱材の発泡剤など様々な用途に使用されている。</p>
へ	閉鎖性水域	<p>外部との水の交換が少ない湖沼、内湾、内海などをいう。流入してくる汚濁負荷が外部へ流出しにくいいため、水域内に蓄積することとなる。大都市や工業地帯に面している閉鎖性水域では、水質汚濁が著しく、富栄養化も進行している。</p>
べ	ベンゼン	<p>常温常圧のもとでは無色透明の液体で独特の臭いがあり、揮発性、引火性が高い。水に溶けにくく、各種溶剤と混合し、よく溶ける。かつては工業用の有機溶剤として用いられたが、現在は他の溶剤に替わられている。自動車用ガソリンに含まれている。</p>
も	モーダルシフト	<p>トラックによる幹線貨物輸送を、地球に優しく、大量輸送が可能な海運又は鉄道に転換すること。</p>
り	流域下水道	<p>市町村の枠を越え、二つ以上の市町村の区域における下水を広域的かつ効率的に排除するものであり、都道府県が設置・管理する。個々の家庭から排出される下水は、市町村が設置・管理する流域関連公共下水道を経て、流域下水道である幹線管渠に接続される。</p>
れ	レッドデータブック	<p>絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本。環境省より2000年から、「改訂版レッドデータブック」が植物や動物の大きなグループごとに順次発行されている。また、ほとんどの都道府県において、都道府県版レッドデータブックが作成されているか、あるいは作成準備中である。</p>
B	BOD	<p>「生物化学的酸素要求量」。BOD= Biochemical Oxygen Demandの略。河川の汚れの度合いを示す指標で、河川水中の汚濁物質が微生物によって分解されるときに必要な酸素量を表したもの。数値が高いほど水中の汚濁物質の量が多いことを示す。</p>
C	COD	<p>「化学的酸素要求量」。COD= Chemical Oxygen Demandの略。海水や湖水の汚れの度合いを示す指標で、水中の汚濁物質を酸化剤で酸化するときに消費される酸素量を表したもの。数値が高いほど水中の汚濁物質の量が多いことを示す。</p>
D	DID	<p>「人口集中地区」。DID= Densely Inhabited Districtの略。総務省統計局国勢調査による地域別人口密度が4,000人/km<sup>2</sup>以上で、その全体が5,000人以上となっている地域をいう。</p>
I	ISO14001	<p>ISO= International Organization for Standardizationの略。国際標準化機構（ISO）が発行した、環境マネジメントシステムの国際規格。</p>
P	PCB	<p>「ポリ塩化ビフェニル」。PCB= Poly Chlorinated Biphenylの略。工業製品化されて以来、その安定性、耐熱性、絶縁性を利用して様々な用途に用いられてきたが、環境中で難分解性であり、生物に蓄積しやすく、慢性毒性がある物質であることが明らかになり、製造及び輸入が原則禁止となっている。</p>
P	PRTR法	<p>「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」のこと。PRTR= Pollutant Release and Transfer Registerの略。工場や事業所が環境に影響を与えるとされる化学物質の排出量や廃棄物としての移動量を把握し、行政に報告し、行政が公表することを通じて、特定化学物質の適正管理を目的とする制度。</p>
W	WECPNL	<p>「加重等価平均騒音レベル」又は「うるささ指数」のこと。WECPNL= Weighed Equivalent Continuous Perceived Noise Levelの略。航空機騒音のピークレベルのパワー平均値と時間帯別の航空機の機数をもとにして算出される。</p>